

### 第3節 効果的な学習展開をねらった中学校における実践例

中学校における「総合的な学習の時間」のねらいや学習課題、学習活動についても、小学校と基本的に変わることはありません。しかし、具体的な課題設定や学習活動の展開においては、中学生の心身の発達段階やそれまでの学習の成果、生活の実態等を踏まえ、より一層の広がりや深まり、個性化に留意しなければなりません。また、教育課程編成の上でも、教科時数の設定、教科担任制における校時や時間割の工夫等、検討すべき課題があります。

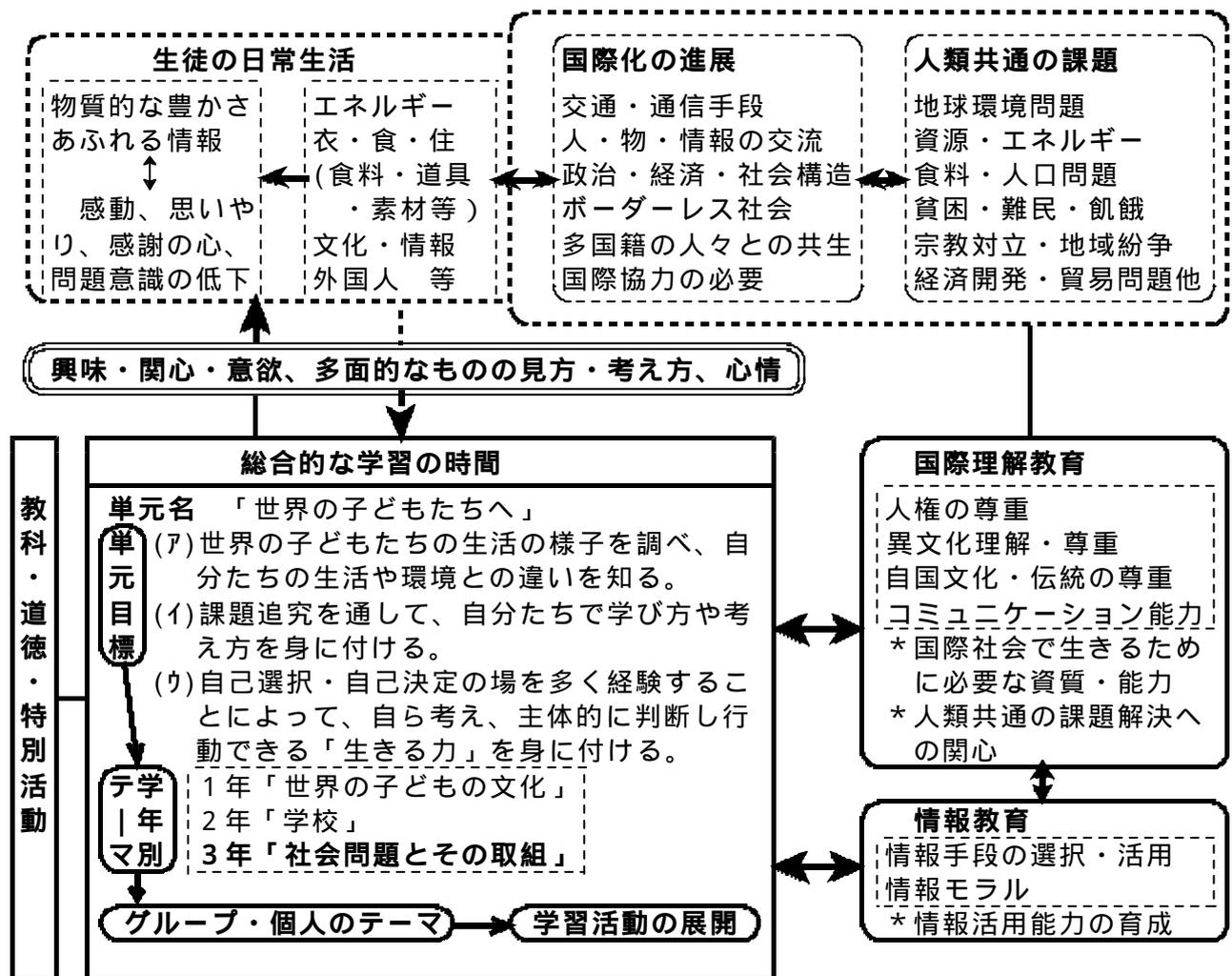
したがって、まず実施可能な形で試行し、学習活動の展開や支援の工夫について経験を蓄積するとともに、成果や課題を明確にし創意工夫を重ねて次年度の展開の充実を図った上で、全面実施に備えることが適当かと思われまます。

以下、府内での実践を参考に、週当たり1時間の時数設定を想定し、年間35時間の計画で主に学校裁量時間を充て全学年1単元で「総合的な学習の時間」を展開する実践例を示します。

#### 1 単元の設定について

##### (1) 単元名 「世界の子どもたちへ」

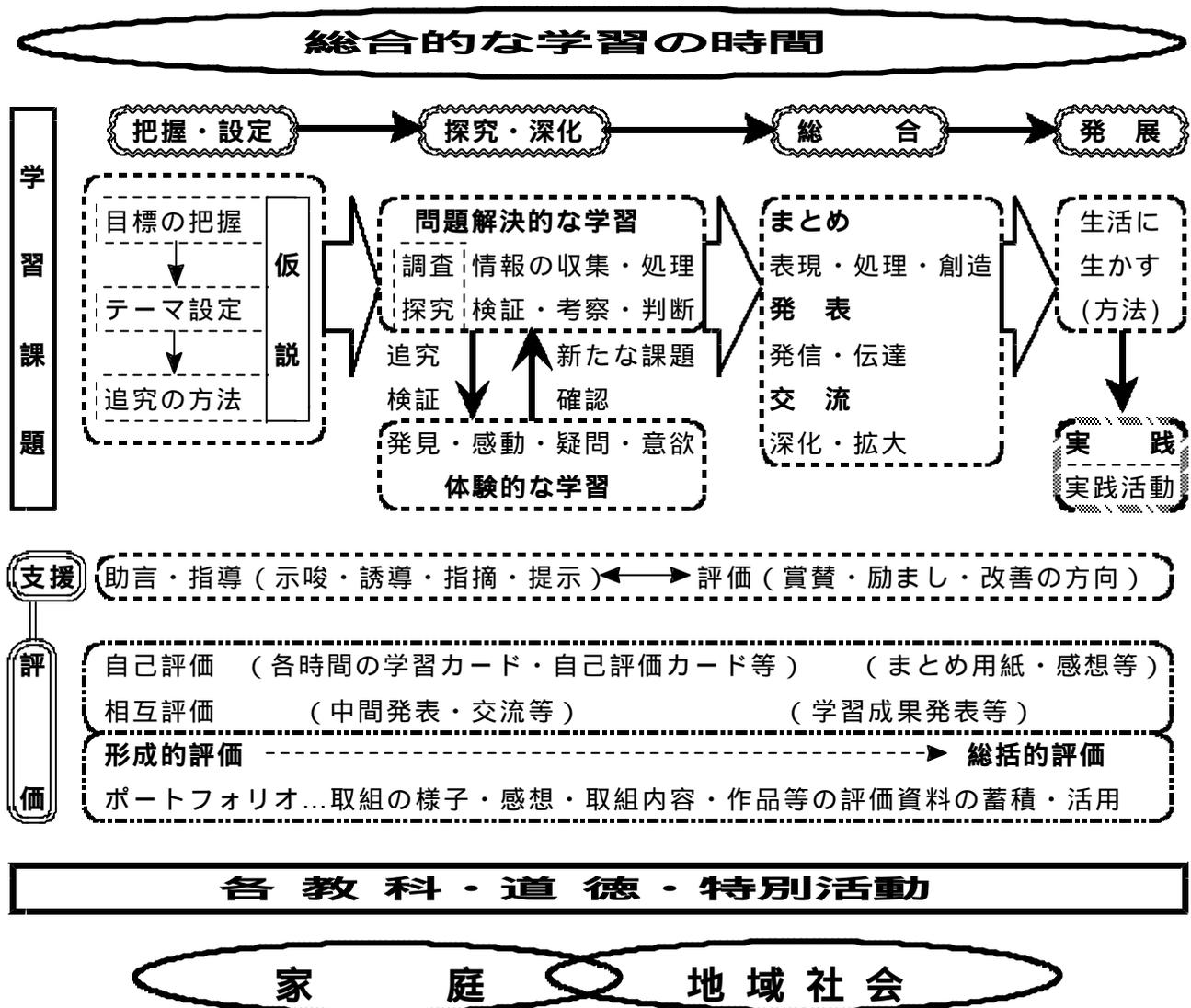
##### (2) 単元の構想



### (3) 単元設定の理由

今日の国際化の進展は著しく、日常生活の中にも国際化の進展を反映した多くの事象や事物が見られます。しかし、多くの生徒にとっては、物質的な豊かさと併せてそのような環境が自明のこととなっており、事象や事物あるいはその背後にあるものへの感動や気付きの力が弱くなっているような現象が見られます。そこで、前述の学習課題の展開によって、国際理解に関する資質や能力、情報活用能力などの育成との関連も図りながら、自ら問題を解決する力、学び方やものの考え方などを身に付け、自己の生活や学習に生かすことのできる力の育成を目指します。

### (4) 単元展開の構想



## 2 単元の構想と展開

学習課程(時数)	学習活動	支援・指導上の留意点	教科との関係
導入(1)	学習目標の理解 ←	「総合的な学習の時間」を通して付ける力の明確化  学年・学級通信等による家庭への広報	社会 英語 道徳
課題把握(1)	テーマの提示 「世界の子どもたちへ」 (統計・資料、ビデオ教材、感想用紙)		
課題設定(6)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           テーマの理解・個人調査 ワークシート         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           テーマについての討議 (ブレンストーミング) 知りたいこと 疑問点         </div> <p style="text-align: center;">テーマの細分化・整理 グループ分け</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           個人テーマ設定 何を課題とするか 調査・探究方法 課題の考察・仮説         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           テーマの内面化 興味・関心の喚起 課題の具体化         </div>	国語
学習計画(1)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           計画案作成         </div>	施設・設備の使用日程の調整(パソコン、図書室等)	社会 国語
課題追求(11)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           調査・探究活動 情報の収集 情報の整理 考察、仮説の検証         </div>		社会 技術
体験活動(2)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           留学生等との交流会 (生徒会行事)         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">           交流会のまとめ         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           調査・探究活動の方向修正 新たな問題提起 問題意識の誘導         </div>	英語
課題追求(10)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           調査・探究活動 留学生等との交流より 情報の整理 調査・探究のまとめ         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           成果発表のための準備 まとめの視覚化 発表方法の検討 発表原稿作成         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 5px;">           発表リハーサル         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           調査・探究活動の援助 新たな方法の提案 視点の転換         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           発表方法の提示 ・プレゼンテーション (視聴覚機器の使用法・スピーチの仕方) ・掲示物の作成 (統計・資料のグラフィック化)         </div>	国語 数学 美術
成果発表(2)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           成果の発表・交流(発表会) (自己評価・相互評価)         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           リハーサル内容への助言         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">           発表内容・方法の評価         </div>	
まとめ(1)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           評価(自己評価、感想) 学習を通して発見できたこと 学習を通して身に付けた力 成果をどう生かしていくか         </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           個人評価 達成課題の評価 個人の今後の課題の明確化         </div>	
発展させた取組	実践活動への展開 ・ボランティア活動 ・国際交流活動	特別活動との関連 (学級活動、生徒会活動等への提案)	

### 3 課題設定時間における展開例

(1) 単元名 「世界の子どもたちへ」 - 社会問題とその取組 -

『課題設定の時間』(全3次6時間...それぞれ2時間続きの授業として設定)

(2) 学年 第3学年

(3) 第1次の展開例(2時間)

#### ア ねらい

「世界の子どもを取り巻く社会問題とその解決に向けて」という学年テーマを理解する。

1年間の「総合的な学習の時間」の流れを把握する。

各自の個人テーマの設定方法を理解する。

#### イ 展開例

時間	過程	学習形態	主な学習活動	教師の支援 教材教具	評価の観点	
第1時	導入	一斉	ビデオ鑑賞 世界の子どもたちを取り巻く社会問題を扱ったビデオを鑑賞 ビデオを鑑賞して、感じたことや思ったことを感想カードに記入する。 ビデオ感想の交流	ビデオ  感想カード	世界の子どもたちを取り巻く社会問題に興味・関心を示しているか。 <感想カード>	
		個人	学年テーマを理解する。 世界の子どもたちを取り巻く社会問題について研究を深め、その解決方法を模索することを理解する。	ビデオを参考にして、生徒が興味・関心をもつように説明する。		
2	展開	一斉	「総合的な学習の時間」の1年間の流れを知る。 1年間の流れを知り、見通しをもつ。	OHP やプリント等を活用し、分かりやすく説明する。	学年テーマ、流、個人テーマの設定方法を把握しているか。	
		一斉	個人テーマの設定方法を知る。			
時	まとめ	<p>ア 子どもを取り巻く社会問題について調査する。 イ 調べてきた内容を交流する。 ウ 自分の興味や関心のある内容を考え、テーマを設定する。</p>				
		一斉	次回までの課題を把握する。 世界の子どもたちを取り巻く社会問題について、文献や新聞、テレビ、雑誌などで調べてくることを知る(家族の人から聞いてきてもよい)。また、疑問に思ったこと、知りたいことなど	課題カード 課題調査の方法を具体的に分かりやすく説明する。(どのような文献があるのか、図書館の利用など情報源を紹介する。)	次回の自己の課題を把握しているか。 (調査課題も含む)	

		記入することを 知る。	
一斉		次回の課題を把握する。 (社会問題の交流と個人テーマの設定)	できるだけ多くの社会問題や疑問点を見つけてくることを伝える。ただし、社会問題そのものの名称だけでなく、様々な具体的な事象を調べてくることを説明する。
個人		自己評価カードを記入し、本時の内容を整理する。	各教科でも共通する課題を学習することを紹介する。 自己評価カード

(3) 第2次の展開例 (2時間)

ア ねらい

調べてきた「世界の子どもを取り巻く社会問題」を相互に交流し、様々な社会問題が存在することを理解する。

調べてきた社会問題を分類・整理することを通して、自分の興味や関心がどこにあるのかを発見する。

イ 展開例

時間	過程	学習形態	主な学習活動	教師の支援 教材教具	評価の観点
第1時間	導入	一斉	本時の課題を把握する。 世界の子どもとたちを取り巻く社会問題について知り、個人テーマの設定を行うことを知る。	個人テーマの設定方法を 確認するとともに、 調査課題の実施状況を 把握する。	
		一斉	調査課題「子どもを取り巻く社会問題」の交流の留意点を知る。 * 調べてきた内容と自分が疑問に思ったこと、調べてみたいと思ったことを交流する ＜留意点＞ * 人の調査内容（思い、考え）に対して批判しない。 * できるだけ多くの調査内容（思い、考え）を発表する。 * 同じ調査内容（意見）であっても自分なりの言葉で発表すること。	調べた内容、自分の考え、疑問に思ったことなどできるだけ多くの問題や考えを出すことを説明する。	世界の子どもたちを取り巻く社会問題に興味・関心をもっているか。
	展開	グループ 調査内容の交流を行う。 交流の中で新たに分かった内容を自分の調べてきた情報に組み込む。 記録者は出てきた問題を横 1/4 の画用紙に記入する。	ブレーストリングの活用  できるだけ多くの具体的な社会問題を発表するよう指導する。ただし、社会問題そのものの名称(例：環境問題、飢餓の問題)ではなく具体的な事象をあげるよう指導する。  横 1/4 の画用紙 (各グループ 16 枚程度)、 マーカー、粘着テープ マグネットシート	＜課題カード＞ ＜グループ交流の状況＞（観察法・自己評価） ＜ポイント＞ 調査内容や思い他の生徒の意見を自分の考えに組み込んでいるか。 など	
		一斉	交流した内容を交流する。 画用紙を黒板に貼り、出てきた		

第 2 時	グループ	内容を交流する。新たな問題を自分の情報の中に組み込む。 情報を分類・整理する 自分が集めた情報やグループ交流で出てきた情報を分類する。 (同じ問題または問題の原因が同じであると考えられるものなどで分類する)	生徒同士で考え、分類整理がスムーズに行えるよう支援する。 事象を記入した画用紙を活用する。	出てきた社会事象を今までの知識や経験から考えて、明確に分類・整理しているか。
	グループ 個人 個人	分類したグループにタイトルをつける。 分類・整理できたものを自分のカードにも記入する。 タイトルの中から、自分の興味や関心、調査活動で疑問に思ったことなどを基に個人のテーマを絞り、決める。	大まかなタイトルによってテーマを絞り込むようにする。また、自分が調べてきた内容や疑問を基に新たな考えを含めて自分自身を振り返りながら決められるよう配慮する。	
まとめ	一斉 個人	次時の活動内容を知る。 大きなテーマの再確認、グループ分け、具体的なテーマの設定など 自己評価カードの記入		

### (3) 第3次の展開例 (2時間)

#### ア ねらい

大まかなテーマを基にグループ分けを行い、これからの学習の計画を立てる。  
個人の課題を設定し、課題解決に向けての方策を考え1年間の見通しをもつ。

#### イ 展開例

時間	過程	学習形態	主な学習活動	教師の支援 教材教具	評価の観点
第	導 入	一斉	本時の課題を把握する。 大きなテーマの再確認、グループ分け、具体的なテーマの設定など	一人のグループがあっても構わない。	
		個人 一斉	自分の大まかなテーマを確認する。(タイトルで決めたテーマ) 大きなテーマごとにグループに分かれる。		
		個人	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">           探究項目及び仮説を立てる         </div> (個人テーマの設定と仮説の設定) 自分の思いと前時の交流を基に具体的な探究項目を設定する。	探究項目記入用紙 (ワークシート)	前時の交流を基に考えるよう指導する。  具体的探究項目を分かりやすい

1	展 時		(大きな項目から具体的探究項目を設定する。) 具体的探究項目は幾つでもよいが、問題提起型の文章で表すこと。(文章で表現することによって、仮説が立てやすくなる。)	具体的探究項目を設定できない生徒への支援 多様な探究項目が考えられるよう支援する。(ワークシートの場合によってはグループで考えさせてもよい。)	文章で簡潔に表現しているか。 多様な探究項目を作成しているか。 (ワークシートの点検、観察法など)
			【予想される探究項目(例)】		
2	開 第 時 と め	グループ	グループ <sup>o</sup> 内での個人探究項目の交流 探究項目が同じ生徒については協力して調査・探究活動を行ってもよい。		自分の考えを明確に話しているか、また、他の生徒の考えを受け入れているか。
		グループ又は個人	探究項目の仮説及び調査計画を立て、内容を明確にする。	多様な調査方法を考えさせるよう支援する。 ワークシート	(観察法、自己評価カード等)
		個人	本時の自己評価(本時の決定内容をまとめる) ・本時の内容(進度)を確認する。(できたこと、探究項目等の再確認) ・次時の課題を把握する。(次回の課題を明確にもつ)  次時の活動内容を把握する。	今日できたこと、できなかったことを明確に認識できるように支援する。  基本的に個人作業になるので、各自の自己評価をしっかりとさせ、次時の課題を把握できるよう支援する。	本時の内容を確認し次時の課題を把握しているか。 (自己評価カード) 次時の課題が把握できていない生徒への支援

飢餓 -----

- ・現在、飢餓で苦しんでいる子どもたちはどれくらいいるのであろうか？
- ・飢餓で苦しんでいる国はどこか？
- ・なぜ、飢餓で苦しんでいる人々がいるのであろうか？
- ・今、私たちには何ができるのであろうか？

紛争と子どもたち -----

- ・現在、紛争が起こっている国・地域はどこか？
- ・紛争の起こっている国の人々の生活は？
- ・子どもたちは？
- ・なぜ、紛争が各地で起こっているのであろうか？
- ・紛争の解決方法は？
- ・子どもたちを救うためにはどうすればよいのだろうか？

#### 4 学習展開の工夫

##### (1) 「総合的な学習の時間」と他教科等との関連

###### ア 各教科等の学び方との関連

各教科の学習においても、「総合的な学習の時間」と同様に生徒が自ら学び、自ら考え、問題解決的に探究していくことが求められています。その意味では、各教科の学び方も「総合的な学習の時間」の学び方も同じであると考えられます。

しかし、各教科等における探究は、各教科固有のものの方や考え方、知識・技能を中心に探究していくものであるのに対し、「総合的な学習の時間」は各教科で習得したものの方や考え方、知識・技能を関連付けて総合的に探究する活動を行うことが求められています。

「総合的な学習の時間」においては、各教科等における固有の学び方、ものの方や考え方、知識・技能等との関連に十分に注意を払うことが必要であり、また各教科等において教科固有の学び方や知識・技能を十分に身に付けておくことも大切です。

そこで、ここでは各教科の固有の学び方や知識・技能等について、国語、社会、数学、理科、外国語についての例を（表 - 1）に示します。また、「世界の子どもたちへ」における各教科の固有の学び方や能力等との関連の一例を「課題設定の場面」「課題追究の場面」「まとめ・表現の場」の3つの場面に分けて示すと（表 - 2）のようになると考えられます。

教科	教科固有の育成する能力・態度等	各教科で身に付けさせたい学び方等
国語	自分の考えをもち、論理的に意見を述べる能力 目的や場面に応じて適切に表現する能力 目的や意図に応じて的確に読み取る能力 目的や方向に沿って効果的に話す能力 相手の意図を理解しながら聞く能力 相手や目的に応じて効果的な文章を書くことのできる能力 文章を読み自分の考え方を深める能力 等	対話や討論の仕方 説明や発表の方法 説明文や通信文等の書き方 記録や報告をまとめる方法 資料の作成方法 等
社会	日本や世界の諸事象を多面的に考察し、公正に判断する能力や態度 国際社会の中で主体的に生きる資質や能力 社会の変化に自ら対応する能力や資質 地理的なものの方・考え方 歴史的なものの方・考え方 政治や経済の方や考え方 社会生活と関連付けたものの方・考え方 資料の収集・選択・活用能力 等	地域的特色を明らかにする視点や方法 歴史についての学び方・調べ方 地図や年表の方、作成方法 資料の収集・活用の方法 インターネットの活用方法 等

数 学	<p>数学的な問題を解決するために、根拠を明らかにし、筋道を立てて説明する表現力や論理的な思考力（図形領域）</p> <p>物事の変化を数学的にとらえる手だてや考え方及び不確定な事象の起こる程度について正しく判断できる力（数量領域）</p> <p>数量や図形について、多面的にものを見る力や論理的に考える力などの創造性</p> <p>事象を数理的に考察し、処理し、活用する力</p> <p>等</p>	<p>数式やグラフにおける処理や表現方法</p> <p>図形による処理や表現方法</p> <p>数量関係や法則の表現方法</p> <p>コンピュータ等の活用方法（グラフ・統計処理・作図・シミュレーション等）</p> <p>等</p>
理 科	<p>目的意識をもった観察・実験を行うことにより、科学的に調べる能力や態度</p> <p>自然や生物の殖え方、天体などの規則性を見つけ考察する力</p> <p>「科学技術と人間」、環境、自然災害など総合的なものの見方</p> <p>自然の分析的・総合的なものの見方</p> <p>等</p>	<p>観察・実験の仕方</p> <p>観察や実験の記録・考察の仕方</p> <p>観察や実験から規則性を発見する方法</p> <p>観察や実験から課題を発見する方法</p> <p>観察や実験から課題を解決する方法</p> <p>コンピュータの活用方法（データ処理等）</p> <p>等</p>
外 国 語	<p>外国語による実践的コミュニケーション能力</p> <p>音声によるコミュニケーション能力</p> <p>外国語によって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度</p> <p>視野を広げ異文化を理解し、尊重する態度</p> <p>等</p>	<p>外国語による対話や討論の仕方</p> <p>外国語による説明や発表の仕方</p> <p>外国語による説明文や通信文の書き方</p> <p>インターネットによる情報の収集及び発信する方法</p> <p>ボディーランゲージの活用方法</p> <p>等</p>

表 - 1 各教科の固有の学び方や知識・技能等

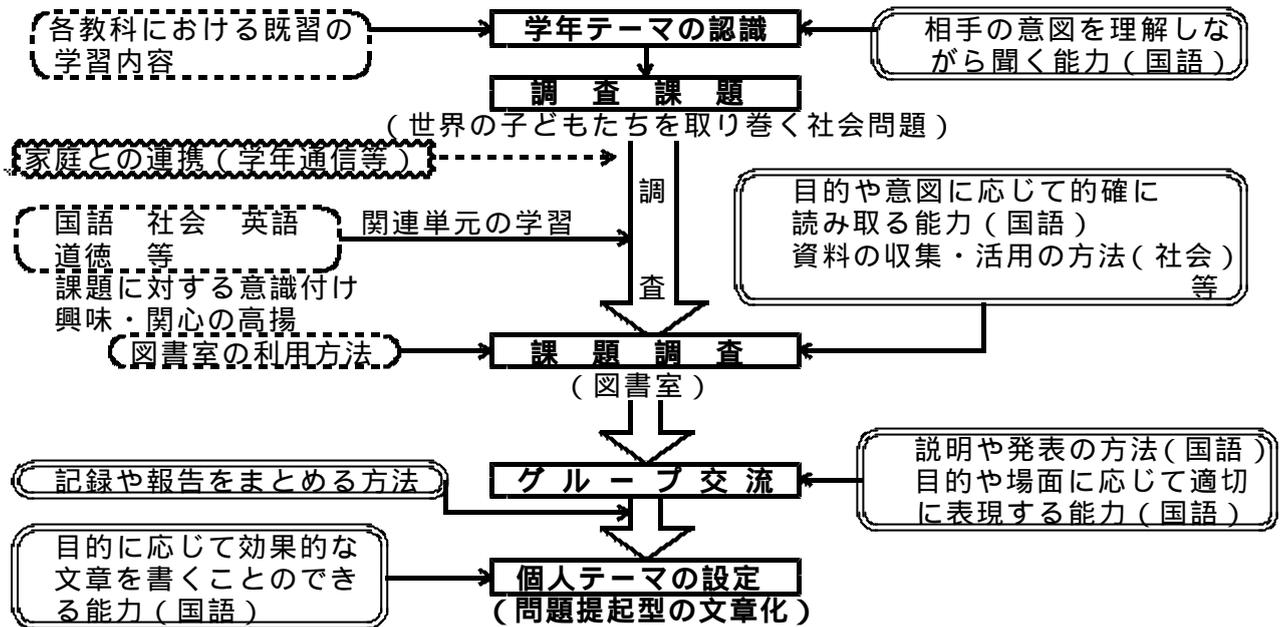
過程	場 面	教科	関 連 事 項
課 題 設 定	課題の把握 (学年テーマの把握)	国語 全	相手の意図を理解しながら聞く能力 各教科等における既習内容
	課題調査 (世界の子もたちを取り巻く社会 問題の調査)	国語 社会 全 他	目的や意図に応じて資料を的確に読み取る能力 資料の収集・活用の方法 関連単元の授業(国語・社会・理科・英語・道徳) 図書室の利用方法
	調査交流(グループ)	国語	説明や発表の方法
		国語	目的や場面に応じて適切に表現する能力
	まとめ	国語	記録や報告をまとめる方法

	個人テーマの設定 (文章化)	国語	目的に応じて効果的な文章を書くこのとできる能力	等
課題 追究	仮説の設定 調査計画 文献調査	国語	目的や意図に応じて資料を的確に読み取る能力	等
	情報収集 (インターネット・ 訪問調査等)	社会 社会 技家 国語	資料の収集・選択・活用能力 インターネットの活用(情報収集能力) 資料の収集・選択・活用能力 情報教育、インターネットの活用 目的や方向に沿って効果的に話す(質問する)能力 相手の意図を理解しながら聞く能力	
	実験・観察	理科	観察・実験の仕方 観察や実験の記録・考察の仕方	等
		理科 数学	コンピュータの活用(データ処理)	
	留学生等との交流	国語 外	相手や目的に応じて効果的な文章を書く能力 目的や方向に沿って効果的に話す(質問する)能力 相手の意図を理解しながら聞く能力 外国語による実践的コミュニケーション能力	等
まとめ ・ 発表 現	情報のまとめ	国語 社会 数学 理科	報告をまとめる能力 資料の作成方法 自分の考えを深める能力 資料の選択・活用能力 地域的特色を明らかにする視点や方法 地図や年表の見方・作成方法 社会生活と関連付けたものの見方・考え方 数式やグラフにおける処理や表現方法 図形による処理や表現方法 数量関係や法則の表現方法 観察や実験から課題を解決する方法 観察や実験の考察の方法	等
	発表	国語 数学 理科 他	目的に応じた効果的な文章を書く能力 説明や発表の方法 数式やグラフにおける処理や表現方法 図形による処理や表現方法 コンピュータの活用(作図・シュミレーション等) コンピュータの活用(データ処理) OHP・OHC・プレゼンテーションの効果的な活用	等

表 - 2 「世界の子どもたちへ」における教科等との関連

## イ 「課題設定の場面」における各教科等との関連

具体的に「課題設定の場面」における各教科等との関連を図式化すると次のようになると考えられます。



この単元の「課題設定の場面」では、子どもを取り巻く社会問題にはどのようなものがあるのかを調査させ、その中から各生徒の興味・関心に応じて個人のテーマを設定するところに目標があります。そのため、教科等の関連から見ると、まず学年テーマを提示するときには社会科を中心とする既習の学習内容を取り込み、課題調査前後においては各教科等で関連する単元を取り入れることが大切であると思われます。

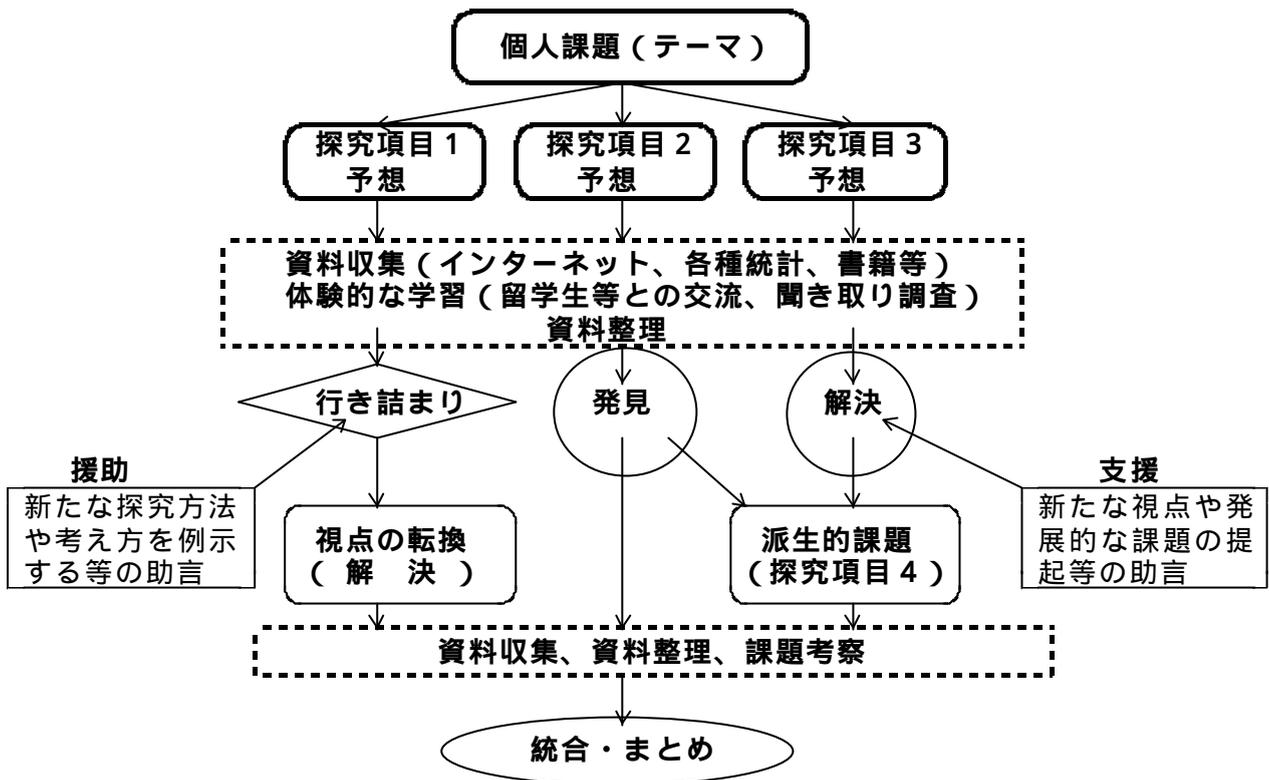
学年テーマの認識やグループ討議においては、目的や意図を的確に聞き取ることや適切に表現するなどの能力、調査活動においては調査の仕方など、教科で付けた知識や能力を十分に活用することが求められます。

しかし、「総合的な学習の時間」全体において言えることですが、生徒が必要な全ての能力を身に付けているとは限らないので、十分でない生徒に対しては教師による支援が必要です。

### (2) 学習方法の工夫について

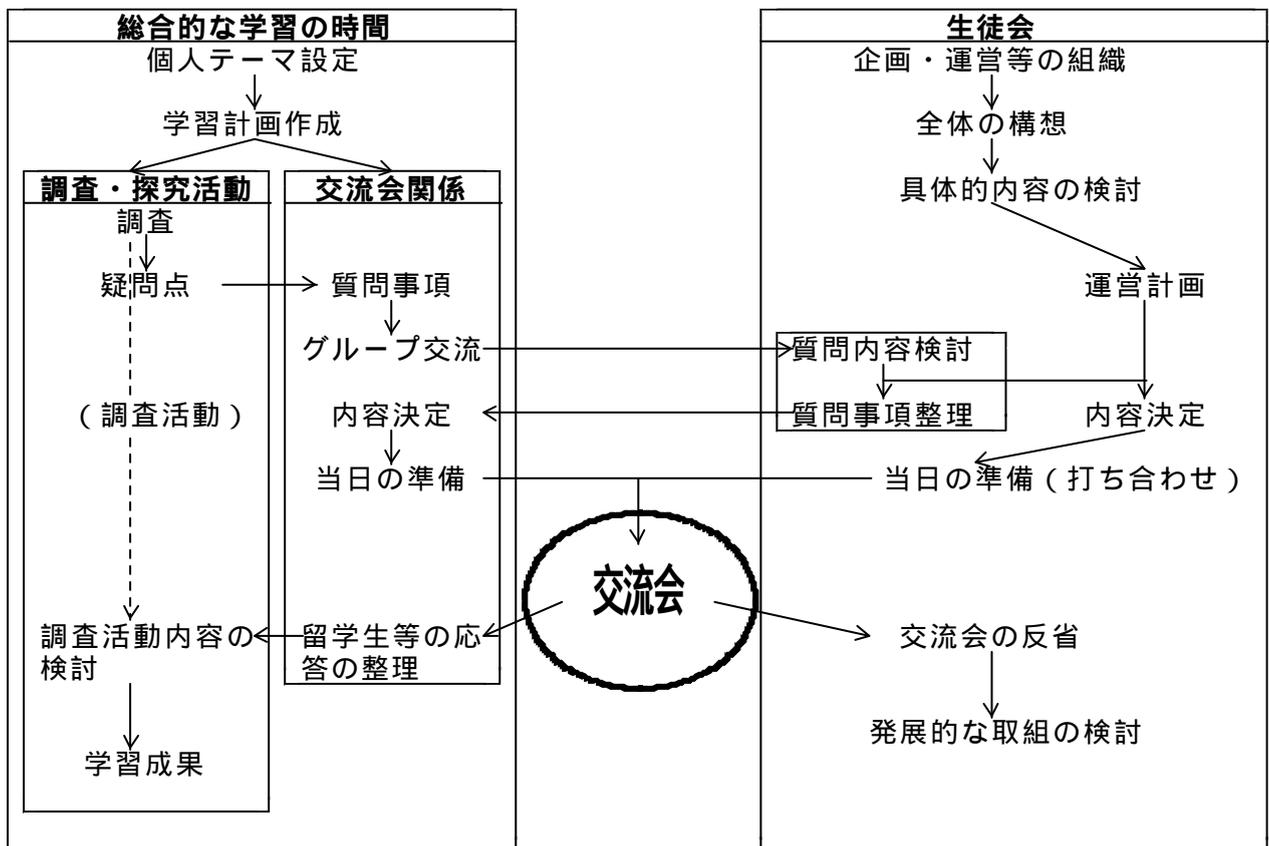
#### ア 課題の探究(問題解決的な学習と支援)

「総合的な学習の時間」は、課題を探究していく全過程を通してそのねらいを達成しようとするものです。そのためには、課題を探究していく過程における指導者の支援・援助の在り方が重要になります。あまりにも解決が容易な課題や、逆に困難な課題の設定は生徒の意欲や関心を生み出さないと考えられるため、生徒の個人的な能力に合った課題の探究過程が必要となります。指導者は、そのことを考慮しながら課題の探究過程に応じて適切な支援・援助を加えていく必要があります。その上で、課題探究の流れをまとめてみると次のようになります。

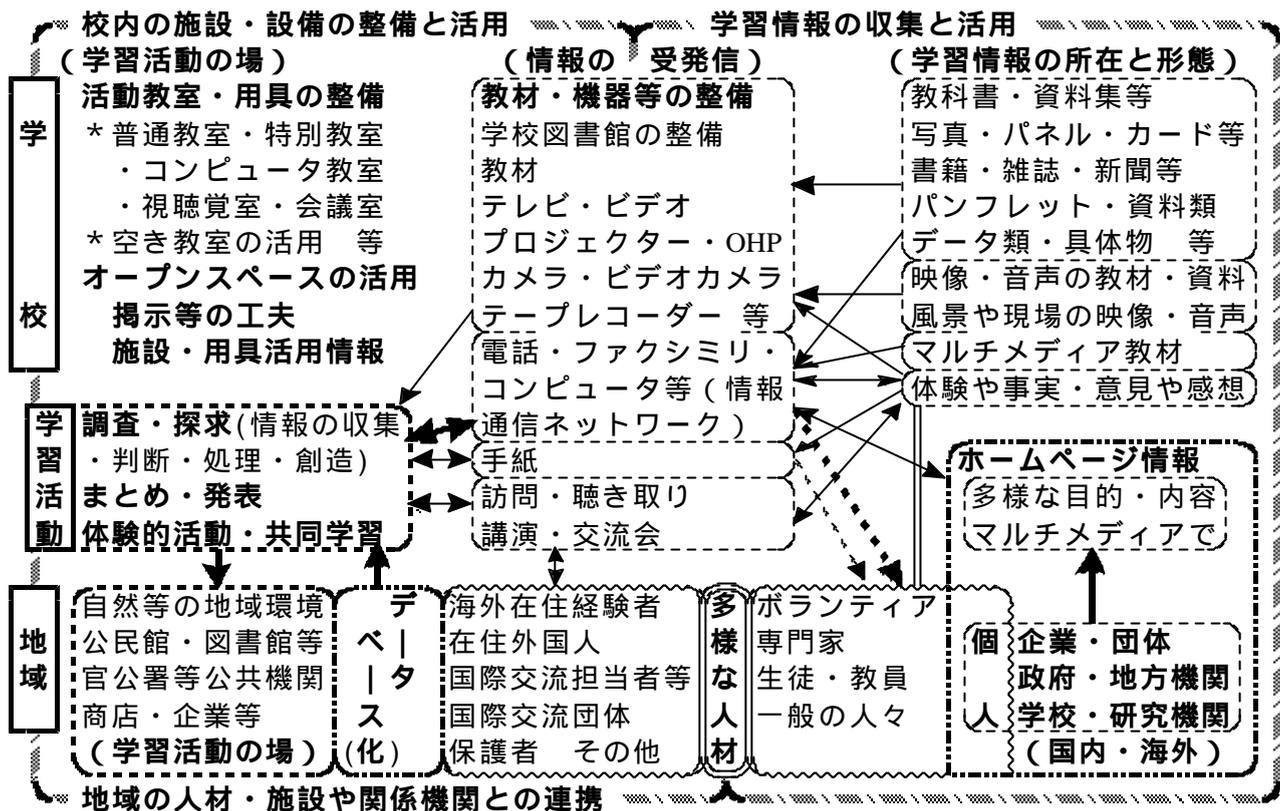


**イ 体験的な学習**

生徒がそれぞれの課題を探究していく過程に広がりをもたせるために、生徒会行事として海外からの留学生等との交流会を開催し、その中に「総合的な学習の時間」と関連させた調査活動を位置付け、各自の探究活動の中に並行して交流会に向けての取組を組み込んでいきます。交流会の中で得た発見、感動、疑問等の情報は、各自の課題探究に生かせるようにします。



### (3) 学習環境の工夫と活用について



#### ア 校内の施設・設備の整備と活用

「総合的な学習の時間」の設定の仕方によっては、施設・設備を限られた条件の中で効果的に活用できるような工夫が必要です。そのためには、各教室の備品や用具はもとより、教材や図書、情報機器等を学校全体で適切に整備・配置することが必要です。特に、問題解決的な学習やまとめ・発表等の学習活動の展開においては、生徒が様々な情報手段を活用できるようにすることが大切です。また、生徒が実際に活用しやすいように場所や使用方法を掲示物等により明示するなど、学習環境に関する情報が生徒に十分に伝わるような工夫が必要です。



資 - 1 インターネットを活用した情報収集

#### イ 学習情報の提供とインターネットの活用

課題の探究・深化の過程では、様々な学習情報が必要となります。学校にある従来の図書・映像等の情報や家庭・公共図書館・諸機関等から収集できる情報には、媒体の数量や情報量、情報の新しさ、個人差など様々な制約があります。「世界の子どもたちへ」という課題で学習活動を展開する上では、インターネットを活用して様々な生きた情報をホームページや電子メール等を使って入手したり、共同学習をしたりすることが有効な方法となります。そのためには、インターネットに接続されたコンピュータを可能な限り生徒が活用できるように、その設置や使用方法等について工夫するとともに、生徒が情報モラルに従い適切に情報を収集し活用できるようにするなど、校内研修等を通じて生徒の活用を支援できる校内体制を整えることが必要です。

課題の探究・深化の過程では、様々な学習情報が必要となります。学校にある従来の図書・映像等の情報や家庭・公共図書館・諸機関等から収集できる情報には、媒体の数量や情報量、情報の新しさ、個人差など様々な制約があります。「世界の子どもたちへ」という課題で学習活動を展開する上では、インターネットを活用して様々な生きた情報をホームページや電子メール等を使って入手したり、共同学習をしたりすることが有効な方法となります。そのためには、インターネットに接続されたコンピュータを可能な限り生徒が活用できるように、その設置や使用方法等について工夫するとともに、生徒が情報モラルに従い適切に情報を収集し活用できるようにするなど、校内研修等を通じて生徒の活用を支援できる校内体制を整えることが必要です。

## ウ 地域の人材、施設や関係機関との連携

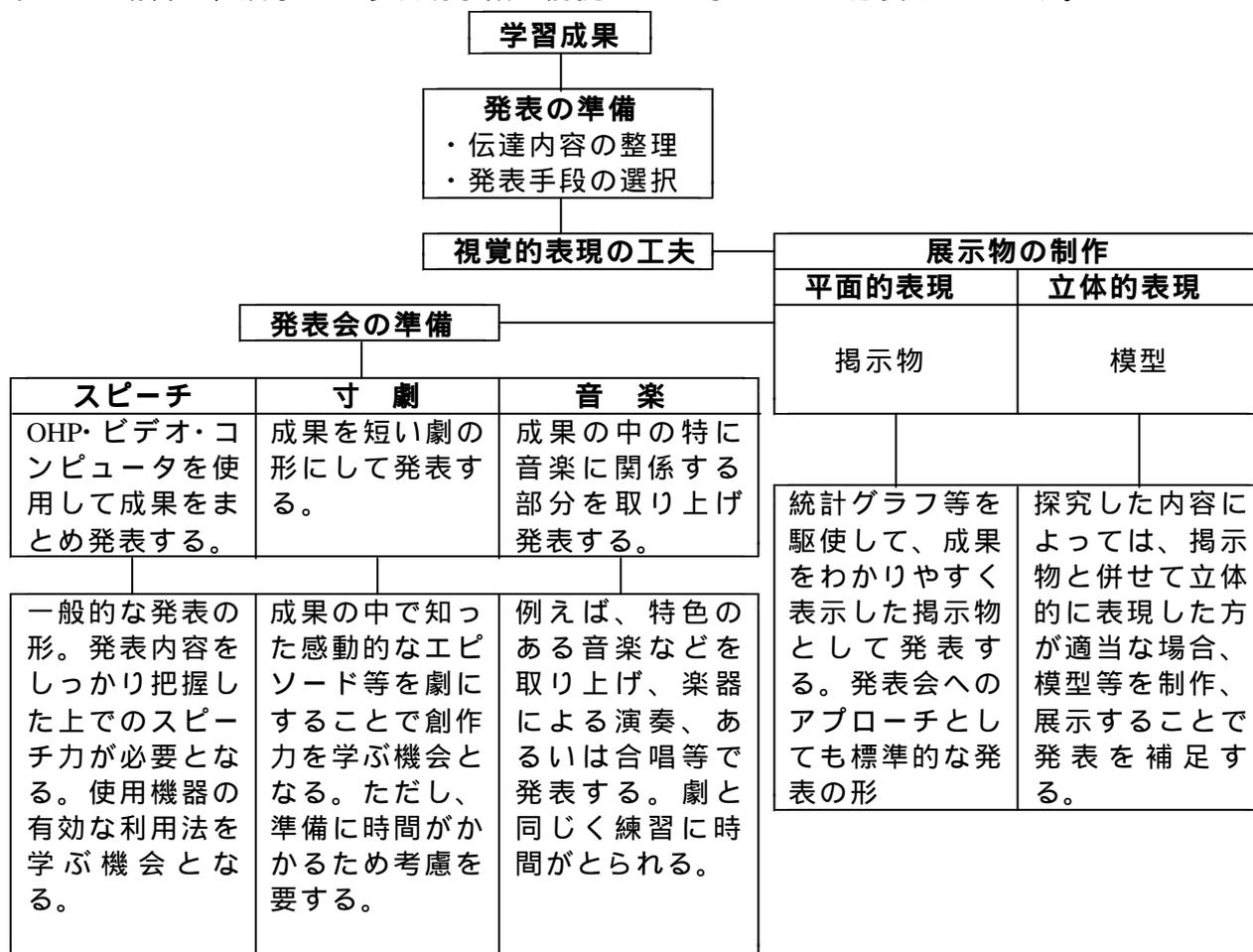
「世界の子どもたちへ」という課題では、どうしても調査・研究活動などを中心とした学習展開になりがちですが、PTA、市役所・公民館等の国際交流担当者や国際交流団体などを窓口にして、地域に在住する外国人や国際交流経験者と交流したり、電子メール等を使って海外の日本人学校や海外在住者と交流するなど、できるだけ体験的な学習が展開できるように工夫する必要があります。その際、地域で学習活動が展開できる施設等の情報や学習活動に協力を願える人材・団体・企業等に関する情報を、学校のもつ様々な情報のネットワークを駆使して収集、蓄積し、教員や生徒が活用できるデータベースにしたり地域情報地図にしたりする工夫も大切なことです。

### (4) 学習成果の発表とその展開について

#### ア 発表の形式

学習成果を発表する取組は、表現力を身に付けさせる意味で大変意義のあるものです。そのために、発表のための多種多様な手段とその方法を提示し、発表内容に合わせて生徒に適切に選択させる必要があります。また、その方法によっては、発表の準備にかなりの時間を要する可能性も考えられるので、かなり早い段階で発表形式を考えさせる機会を設定することも考慮しなくてはならないでしょう。

発表の形式としては、発表会という時間枠を設定して実施する場合と、展示する空間を設定し展示物の形として発表させる場合の二つが基本的に考えられます。ただし、発表会という形式をとる場合も、展示という表現手段を前提として考えさせる必要があります。



## イ 他校や地域への情報発信

「総合的な学習の時間」の取組内容、経過及び成果を学校外へ発信することも、その後の地域をはじめとした協力体制をより充実させる上で重要な取組となってきます。例えば、

「総合的な学習の時間」の内容をまとめた新聞等の広報紙を作成し、保護者や地域等に配布する。

府・市町村やそれぞれの教育委員会の広報紙等に、学習内容や発表会の日程等の情報の掲載を依頼する。

学校のホームページを作成してインターネットに発信する。その中に学習内容や成果をまとめて掲載する。

などが考えられますが、これらの取組は「総合的な学習の時間」で取り組むには時間的に難しいため、他教科や特別活動との連携の上で考える必要があります。

## ウ 学習成果を発展させた取組

「総合的な学習の時間」で取り組んだ内容から日常的な取組として継続的にできることを探り、学校の特色ある取組として実施することも考えられます。テーマである「世界の子どもたちへ」の内容から世界と学校との接点を見つけ出す中で、中学生としてできることを生徒会行事等の形で取り組む例としては、

発展途上国への援助としてのボランティア活動

海外からの留学生等との定期的な交流会の実施

海外の中学校との電子メールを使った情報交換等、インターネットによる交流

などが考えられます。このような取組は、国際理解教育の視点に立つものですが、人間としての在り方・生き方にかかわる取組としても重要な位置を占めるといえます。いずれにしても、「総合的な学習の時間」をその場限りの学習に終わらせないためにも、その後の実践的な取組をどのように展開するかは重要な要素となるでしょう。

## 5 評価の工夫

「総合的な学習の時間」では学習過程を重視し、生徒を支援する中でその取組の様子に着目し、賞賛や励まし、改善の指摘等の適切な評価を与え、生徒自身が次の活動への見通しをもって学習を進められるよう、指導と評価の一体化に努めることが必要です。そのためには、評価や支援を受けて生徒自身が学習状況を把握し、個性やよさを見つけ課題に気付くために、学びを振り返る適切な機会と方法を設定することが大切です。

自己評価は、毎時間の自己評価カード（資 - 2）や単元終了時のまとめ用紙等の内容を工夫し、生徒自身が自己の取組を振り返り、次の目標や計画を確認できるような方法を用いて行います。

相互評価は、取組の中間報告やまとめの発表時に、生徒が相互に意見や感想を述べ合う機会や相互評価カードなどを工夫し、生徒自身が自己の取組や学習成果を振り返り、学びを深化できるような方法で行います。

また、このような生徒の自己評価や相互評価は、指導者が生徒の学習活動の状況や課題を把握し、支援の在り方を振り返り改善する手段としても大切なものです。

月 日 ( ) 第 ( ) 校時      3年 ( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )	
この時間の目標	達成度を ✓ しよう [ ] [ ] [ ]
特に努力したことは？	達成できなかった点は？
学んだことは？	次に改善したいことは？
学びたい友達の努力点は？	
以上のことから次の時間の目標や努力点を決めよう！	
先生からの一言	

### 資 - 2 自己評価カード例

「総合的な学習の時間」の学習活動で生徒が身に付けた力を評価するためには、学習の状況や成果が読み取れる資料を学習過程とともに蓄積する必要があります。そのためには、学習過程の全体を通して、生徒の自己評価や相互評価、感想や作文、協力者等の返事や感想、学習計画、取組内容、報告書や作品・作成資料等、単元や各時間の学習活動にかかわる資料を個別のファイル（ポートフォリオ）に収集・蓄積し、生徒、指導者ともに活用することが大切です。それらを基に随時、形成的に評価したり、総括的に評価します。その際、例えば指導要録等においても、評定は行わず、所見等を記述することによって評価を行います。また、結果を生徒や保護者に知らせるために、通知表の所見欄への記載方法等を工夫することも必要です。

## 6 まとめ

「総合的な学習の時間」の具体化に向けた実践例を示してみましたが、学習課題の設定や学習活動の展開、評価の方法等については、各学校の特色を生かし創意工夫を図ることが必要です。

「総合的な学習の時間」の展開に当たっては、ある時期に集中的に行うなどの弾力的な設定や全教職員の一体的な指導体制等を工夫することとされています。教科担任制を採る中学校では、この時間を年間を通して週時程表に位置付ける場合、何曜日の何時間目にどの学年に設定するのか、集中的に行う場合、どの時期に行うのか、週時程表はどうするのか、また、一単位時間を超えて授業時間を設定する場合の校時や週時程はどのように展開するのか、更に、学級担任か教科担任か誰がその時間を担当するのかなど、具体的で相互に関連する課題があり、その解決には実践に基づく各学校の創意工夫が不可欠です。

このように「総合的な学習の時間」を具体化する上での課題はたくさんありますが、学校体制を確立し、一人一人の教職員の創意工夫と知恵を集め、地域の教育機能との連携を図りながら、一つ一つ地道に課題を解決し、生きる力をはぐくむ特色ある教育活動を創造することが求められていると言えます。